

## 平和の尊さ

小野寺 董子

私が今年、広島市平和記念式典児童派遣事業に応募した理由は、去年この事業に参加した六年生の言葉を聞いて、終戦の年に広島で何があつたのかを私もこの目で確かめたいと思つたからです。

一九四五年八月六日、戦争中ではあつたけれど家族や学校の友達、仕事の仲間などとの普段と変わらない晴れた夏の朝を過ぎて、い

た八時十五分に米軍が落とした原子爆弾が広島市の上空六百メートルで爆発しました。まぶしいほどの閃光とともに強烈な熱線、凄まじい勢いの爆風そして目に見えない放射線は、一瞬にして広島の町と十四万人もの広島人の命を奪いました。たつた一発の爆弾の破壊力は太陽が落ちてキ、たかと思うほどの、人々が経験したことのない衝撃でした。

私が特に心に残つたのは、爆発で巻き上げられたほこりやすすが放射性物質を含んだ黒

い雨となり広い範囲に降り注いだことでした。あまりの熱さに水を求めた人が口にした雨、直接被爆しない無傷だった人も逃げる途中で、家族を探しに爆心地に向かって人も浴びた雨でした。後に、人体実験とも言われたこの新しい科学兵器の恐ろしさを知らずに受けてしまつた放射線の影響で、数年後に白血病やがんに患つて亡くなつた人、七十四年経つた今も後障害に苦しむ人たちがいます。私は被爆した人の思いを考えながら平和記念式典に参列しました。この日は雨が降つていてあの日の雨を思い出させるようでした。

私は、平和記念資料館を見学して、原爆が落とされる前の広島の町の様子と何もなくなつてしまつた後の写真を見比べた時、皮ふが焼けただれ両手を前にして歩いている人の絵実際にあつた悲惨な光景の数々を資料で目の当たりにした時、なぜ人は同じ人間をここまで傷つけられるのかという思いが込み上げてきました。語り部さんの話から、市街地の作

業に動員された私と同じ十二、三才の子ども  
の死没者の人数が他の年代に比べて多かつた  
ことを知りました。自分達と同じように将来  
への夢がその一人一人にあつたのだと思いま  
す。世界唯一の被爆国日本は被害を受けた  
側ばかりだつたわけではなく多くの罪のない  
人を殺したことや戦後他国が使う兵器の原料  
を売つて経済成長したこと、日本には核分裂  
を利用する原子力発電所があり、東日本大震  
災の事故で環境への甚大な被害をもたらした  
ことも知りました。今世界には一万四千九百  
五十五発もの核兵器があります。核兵器のな  
い世界の実現はそう簡単ではありません。け  
れども慰靈碑に刻まれた「過ちは繰り返さな  
い」強い決意を持つて諦めることなく一人一  
人が平和を願い努力を続けることが大切だと  
思います。私が広島で受け取つた、世界が平  
和であることを願う人々の思いを今度は自分  
が令和の新しい時代を、未来を創る世代に伝  
えたいと思います。ありがとうございました。